

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公印省略)

病害虫発生予察特殊報について

平成28年度病害虫発生予察特殊報第1号を発表したので送付します。

平成28年度病害虫発生予察特殊報第1号

1 病 害 名 : クルクマ青枯病

2 病 原 菌 : *Ralstonia solanacearum* (レース4)

3 発 生 地 域 : 沖縄本島

4 発 生 作 物 : クルクマ

5 発生確認及び発生状況

- (1) 平成28年6月、沖縄本島のクルクマ栽培ほ場において、立枯症状が確認された(写真1, 2)。農林水産省那覇植物防疫事務所に分離・同定を依頼した結果、病原細菌 *Ralstonia solanacearum* レース4であることが確認された。本県でレース4によるクルクマにおける当該病害が確認されたのは初めてである。
- (2) 本病原菌のレースは平成7年に国内で初めて高知県の観賞用クルクマで発生が確認されており、平成9年以降は、同県のショウガ及びミョウガで報告がある。九州地域における発生は平成20年に鹿児島県、平成21年に長崎県及び宮崎県、平成25年に熊本県で確認されている。沖縄県では、平成26年に秋ウコン、春ウコン及び紫ウコンでの発生が確認されている。
※平成26年度病害虫発生予察特殊報第1号(平成27年3月13日)参照

6 病徴

- (1) 地上部では、はじめに葉が水分を失い、葉及び茎が黄化する。
- (2) 症状が進むと地上部全体が黄化・萎ちょうし、地際部が腐敗して倒伏・枯死する(写真2~4)。
- (3) 発病株は、生育が抑制され著しく減収する。罹病茎を水に浸漬すると切断面から菌泥が漏出する(写真5)。

7 病原菌の特徴と伝搬方法

本病原菌は細菌の一種で、宿主植物に対する感染の違いにより5つのレースに類別され、ショウガ科の植物ではレース4のみが発病する(表)。また、罹病した株が伝染源となり、宿主植物がなくても土壌中や水中で病原菌が長期間生存し伝染源となる。

病原菌は、水によって伝搬され、地下部の傷口から植物体に侵入する。侵入後は植物体内で増殖し、株を萎れさせるとともに次の伝染源となる。大雨などでほ場が浸水すると水によって運ばれた病原菌が広範囲に感染し、病気が急激に拡大する場合もある。また、管理作業による傷口などからも伝染し、感染を拡大していく。

8 防除対策

- (1) 感染拡大を防ぐため、発生ほ場で採取した根茎や球茎は使用しない。
- (2) 土壌伝染性の病害であるため、発生ほ場の土壌を持ち込まない。また、発生ほ場での作業終了後はトラクター等の農機具類の洗浄を徹底する。
- (3) 発病した株は伝染源となるので、直ちに抜き取り焼却処分する。その際、隣接株の根を傷めないように注意する。抜き取った発病株付近は継続して観察する。
- (4) 病原菌は高温多湿を好み水によって伝搬されるので、ほ場の排水対策を徹底する。
- (5) ショウガ科及びナス科以外の作物で輪作を行い、センチュウ類等の同時防除をかねて土壌消毒を行う。

表 ショウガ科青枯病菌系統及び在来系統の病原性(土屋, 2008)

検定植物	病原力(萎ちょう程度)		
	レース4 (ショウガ科由来)	レース1 (トマト、ナス由来)	レース3 (ジャガイモ由来)
トマト	0～中	中～強	0～弱
ナス	弱～中	中～強	0
ピーマン	弱～中	中～強	0
タバコ	HR	弱～中(HR)	0
ジャガイモ	弱～強	弱～中	中～強
クルクマ	弱～強	0～弱	-
ショウガ	中～強	0	0
ミョウガ	中～強	0	0

HR: 過敏反応, -: 試験せず



写真1. 発生ほ場の様子



写真2. 萎ちょうした株



写真3. 茎切断面(左:健全、右:罹病)



写真4. 罹病株における地際部の腐敗



写真5. 茎切断面から漏出する白色菌泥

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL: 098-886-3880

ホームページアドレス: <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>